

大地の生い立ち・美濃加茂⑦

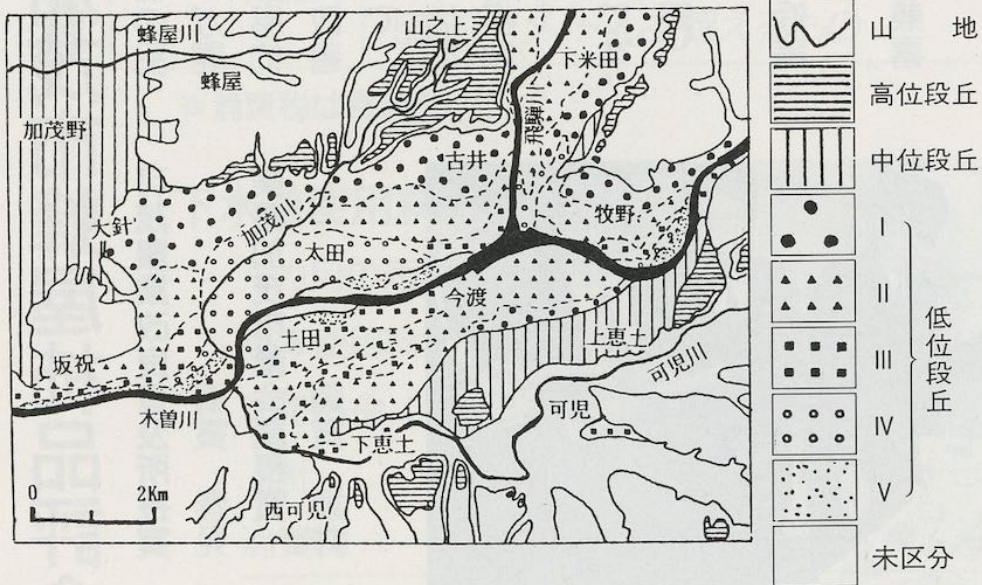
古木曾川がつくった河岸段丘

美濃加茂盆地の平坦部は古木曾川や古飛驒川が運搬した数十万年前以降の砂礫層でできています。その砂礫層は浸食と堆積の繰り返しで、河岸段丘を形成しています。

美濃加茂盆地の河岸段丘は、高位、中位、低位の二段があります。河岸段丘は高い所ほど古い時代にできており、山之上町の上野台地が一番古く、約四十年ほど前のものです。

可児市坂戸の台地も同じ高位段丘になります。中位段丘は加茂野町や可児市中恵土などに分布しています。美濃加茂盆地の市街地には、数万年前以降の低位段丘が発達し、それらは五段にわけることができます。西町の高山本線沿いの段丘などが典型的な例です。

美濃加茂盆地に多い



美濃加茂の河岸段丘

坂道は、河岸段丘の段丘崖が関係していることが多いのです。(博物館建設委員・鹿野勘次)

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

(平成五年十二月分)

○さおばかり 一点

(野口貴一さん/太田町)

○養蚕用具など 六点

(渡辺英行さん/川合町)

市社会教育課博物館建設係

(内線二六二)まで情報をお寄せください。